

令和6年度 修文学院高等学校 学校評価

【教育目標】

知的で、明るく、たくましく、共感力をそなえ、国家、社会に貢献できる人間力を養う。

【グランドデザイン】80年の歴史・伝統に、新たな息吹を吹き込む「修文新時代」構想 ～「不易と流行」、「統一性と多様性」のバランスをどう図るか～

[目標領域1] 文武両道・全人教育(人間力の育成)

- 1 学院訓「推譲・明朗・強健」人間力育成の不易の価値と位置づけ、あらゆる機会を通して、その具体化を図る
- 2 男女共学化・新学習指導要領実施のもと、多様な生徒に対応できる「個別最適な学び」を実践する
- 3 規範意識や帰属意識を高めるために「統一性」を重視し全体指導などを実施する
- 4 人生100年時代に相応しい「学びの姿勢(どう学ぶか)」を身につけ、学びの土台をつくる
- 5 心の教育を推進し、共感力・自立心やたくましい精神力を養う
- 6 学校を取り巻く社会の変化に対応できる資質・能力を育てる

[目標領域2] 教育は人なり(教師力の向上)

- 1 予習・授業・復習のサイクルを明確にした「修文メソッド」を各教科で確立し、徹底させる
- 2 教員の授業力向上

[目標領域3] 地域に信頼される学校(地域連携・高大連携の充実)

- 1 地域社会に貢献し、地域の教育力を活用する
- 2 高大連携の充実

【今年度の重点目標】

- 1 社会人となるための基本を身につけさせる —「あ・じ・み・そ」の徹底—
- 2 学習に対する意欲を喚起し、学力を向上させる —学力の保証—
- 3 進路実現の充実を図る —進路指導の充実—
- 4 心の教育の充実・自立心を育てる —心の学校—
- 5 防災教育を推進する —安心・安全な学校—
- 6 地域の期待にこたえ、信頼される学校をつくる —開かれた学校—

項目	重点目標	具体的方策	留意事項
普通科	基礎学力の定着と応用力の養成	・朝の徹底反復学習の継続実施(ICT活用含む) ・日常的かつ計画的な振り返り	・取り組みに関して、手段、目的、成果を意識、確認する
	視野の拡大と可能性の追求	・全国模試の受験と結果データの活用(進研模試1年～3年、全統模試3年) ・普通科実力テストの実施(全学年2回実施) ・普通科補習の実施(夏15日・冬5日・春4日(特進のみ))	・やりっぱなし指導(受験させっぱなし、結果帳票の返却っぱなしなど)に十分留意する ・可能な限り、学習機会を提供する
	難関大への挑戦「国立大学10名以上の合格」	・難関大志望者集団の育成(3Sプロジェクト2年・3年) ・進路ガイダンスの実施と進路情報の発信 ・教師、生徒(保護者)の意識改革	・学力上位者の進路意識向上 ・個別指導の継続指導
	人間力の育成	・普通科「学びの特色化」(探究的な学び・ICT活用) ・「目標とする10の学習者像」(教室掲示) ・規律、規範等、生活指導の徹底(個性や互いの尊重、クラス集団の強さ)	・互いの違いを認め合える人間力を身につけさせる ・学校行事への取り組みをきっかけにクラスとしての一体感、普通科としての一体感を醸成する
情報会計科	積極的な資格取得と納得のいく進路実現	・夏季補習、検定直前補習、朝補習の充実 ・緻密な進路指導 ・個人面談の充実	・組織的な検定補習によって、卒業時に全員が技術顕彰の受領を目指す。 ・進学希望者には、個人面談を実施するとともに、資格を利用した推薦制度の紹介をする。 ・就職希望者には、個人面談や面接練習等を実施し、きめ細やかな指導をする。
	社会人基礎力の育成とICT教育の充実	・報連相の徹底 ・凡事徹底(挨拶・時間・身だしなみ・掃除) ・ICT教育の充実と活用	・報連相を徹底することで、コミュニケーション能力の伸長を図る。 ・挨拶、時間、身だしなみ、掃除等の凡事徹底を通して、社会人基礎力を身につけさせる。 ・ICT機器やクラウドを活用し、最先端のICT教育を推進する。
家政科	専門教科の技術の習得	・家政科スローガンの実現 ・作品完成までのプロセスの重視	・1年次から、提出期限をしっかりと意識した作品製作に取り組ませる。 ・反復学習の時間などを積極的に活用し、課題完成を目指させる。 ・被服課題が増加する2年生の取組みに特に注意を払う。
	幼・大および地域との連携	・系列大学や系列幼稚園との連携 ・地域行事への積極的参加 ・各種コンクールへの応募	・幼児教育学科の施設を利用し、より実践的な技術を身に付けさせる。 ・幼稚園での実習の機会を多く持ち、保育分野への興味関心を高める。 ・地域のイベントに積極的に参加させ、地域における役割について意識させる。 ・各種コンクールに積極的にチャレンジする心を育てる。
食物調理科	調理技術と知識の習得	・挨拶、礼儀、時間厳守など基本的な生活習慣の徹底 ・「整理」、「整頓」、「清掃」、「清潔」、「躰」を意識した指導	・基本的な生活習慣を確立させ、調理師としての自覚を育てる。 ・衛生管理の指導を定期的かつ継続的に実施する。
	地域に根づく学科	・定番イベントの更なる拡充 ・新規イベントへの参入 ・調理実習室で実施できるイベントの構築	・積極的に地域への広報活動を実施する。

項目	重点目標	具体的方策	留意事項
総務課	防災教育・安全教育の推進	・防災教育の推進、安全教育の周知徹底	・危機を予防するために、安全点検・防災訓練を実施し、安全に行動できる知識や能力を育成する。
	P T A や同窓会組織の充実	・P T A 活動の主体的な取組みへの支援 ・同窓会活動の充実やネットワークづくり	・校務支援システム(B L E N D)やホームページを通して取組みを紹介し、協力連携を図り、P T A や同窓会の活動を主体的・活発的に行うため、提案や支援をする。
教務課	生徒の学力向上	・基礎学力の定着と応用力の養成	・徹底反復学習にしっかり取組ませ、到達度テストでの連動課題配信を促し、基礎学力の定着を図る。 ・模擬試験や検定を積極的に受験させ、入試に対応できる能力を身につけさせる。
		・英語教育と理数教育の充実	・授業以外にオンライン英会話、海外・国内語学研修を通し、興味関心を抱かせ、英語力向上を図る。 ・教員、施設、設備を充実させ、理数教育を強化する。
	教員の授業力向上	・授業規律の確立と授業力の向上	・始業や終業のけじめと挨拶を徹底する。 ・ICTの授業を取入れ、アダプティブな対応で生徒の学習効果の向上に努める。
	図書館の利用促進	・読書環境の整備	・良質な読書環境を整備する。 ・図書館を授業、特別活動等で計画的に利用し、生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動の充実を図る。
生徒課	生徒指導体制の確立	・各学科に生徒指導教員を配置する ・特別指導に該当する場合は、生徒指導部会、生徒指導委員会を開く	・生徒指導担当教員に丸投げすることなく、全教職員で生徒指導にあたる
	部活動の充実	・活動場所の確保 ・予算の充実	・勝利、結果のみを求めるのではなく、総合的人間育成を図る
	生徒主体の学校行事、委員会への移行	・生徒会から意見を吸い上げ、生徒主体に移行する	・生徒の意見を精査し、生徒の言う通りにならないようにする ・生徒の意見を操作することのないようにする
進路課	・難関大への積極的な挑戦	・計画的に進路検討会を開き、進路指導の充実を図る。 ・学科の特徴を活かし、多様な入試制度に挑戦させる。	・複数教員の意見により個々の指導方法を検討し、本人にしっかり理解させる。 ・専門学科ならではの挑戦方法を模索し、指導に役立てる。
	・進路意識を明確にする行事の工夫	・3年進学補習の在り方を明確にする。 ・模試の結果の分析および各教科と情報の共有をする。 ・学科,学年単位での指導策を工夫する。	・内部選抜,学校推薦型選抜とも関連付けた指導方法を検討する。 ・日頃からの模試対策や事後指導、結果の振り返りを各教科と情報を共有し、学力の定着を図る。 ・外部講師による進路説明会や就職説明会を企画し書く学科の特徴を引き出させる。
	・地元企業への就職内定	・就職希望者に対して就労感を育成し就職試験対策を強化する。	・1,2年生にはインターンシップへの積極的な参加を勧め、3年生には就職試験対策の講座を充実させる。
広報課	情報発信と広報活動の充実	・ホームページ、SNS、学校案内といった広報活動を通して、本校の魅力を継続的に発信する	・ホームページ、SNS、学校案内等、より一層見やすく魅力的なものにしていく。 ・学校説明会、入試説明会等の内容をより一層拡充し、本校の魅力を発信する。